

東日本大震災と大津波、福島第一原発事故への取組み



大津波がいわき市沿岸部を直撃
夏は海水浴でにぎわう、いわきの海もがれきの山に・・・(いわき市豊間地区)



車が通れないため道路脇に寄せられたがれきの山。
さらに被害が大きい地区は立ち入ることできない。



海沿いの国立いわき病院(写真奥)。避難が上手くいったため患者さんは、無事でした。



なんと・・・コンクリートの堤防提が津波により破壊されました。



アライブが緊急の避難所に

地震で家に帰れなくなった所員のため、一週間にわたり、臨時の避難所になりました。



焼き肉丼でカンパイ（3月17日）

アライブでの生活も1週間になり、だいぶ疲労の色がみられます。ささやかですが焼き肉丼で英気を養いました。ベッドは2つしかないため、床に新聞紙を引きその上に布団を敷いて寝たため明け方は特に寒かったです。



送ってもらったガソリンを給油（3月18日）

なにより足りなかった物資はガソリンでした。

この頃のいわき市は深刻なガソリン不足で、ほとんどのスタンドは休業中。わずかなガソリンを求めて開いているスタンドに長蛇の列ができていました。

3/16に「ガソリンを送って！」とメールで全国に発信。すると翌日には広島県の自立生活センターが一昼夜かけ2000リットルを届けてくれました。大感激の「ガソリン輸送作戦」でした。





東京への一時避難① (3月19日)

ライフラインの復旧の見通しが立たず、物流もストップしているため日常生活を送ることが困難になり、東京へ一時避難することとなりました。希望者は30数人。写真は出発前のような様子です。車7台での移動となりました。



東京への一時避難② (3月19日)

東京までのルート説明、休憩地点の確認などを行っている様子です。

メンバーのなかには高齢の方も多かったため休憩は3回となりました。



5時間かけて東京の新宿区の戸山サンライズに到着



東北関東大震災障害者救援本部のみなさんが温かく迎えてくれました。



東京からいわきへ救援物資を輸送（ガソリン、灯油を含む）
写真は、いわき市保健所に流動食などを届けたところ



集団避難したグループは「自立村」と名づけました。
いわきへの帰還の時期などを協議する「自立村 村民集会」が数回開かれました。



お世話になった救援本部やさくら会のスタッフ、戸山サンライズの職員の方々に花束を贈り、感謝の気持ちを伝えました。その後一路いわきへ。一か月ぶりの帰還でした。